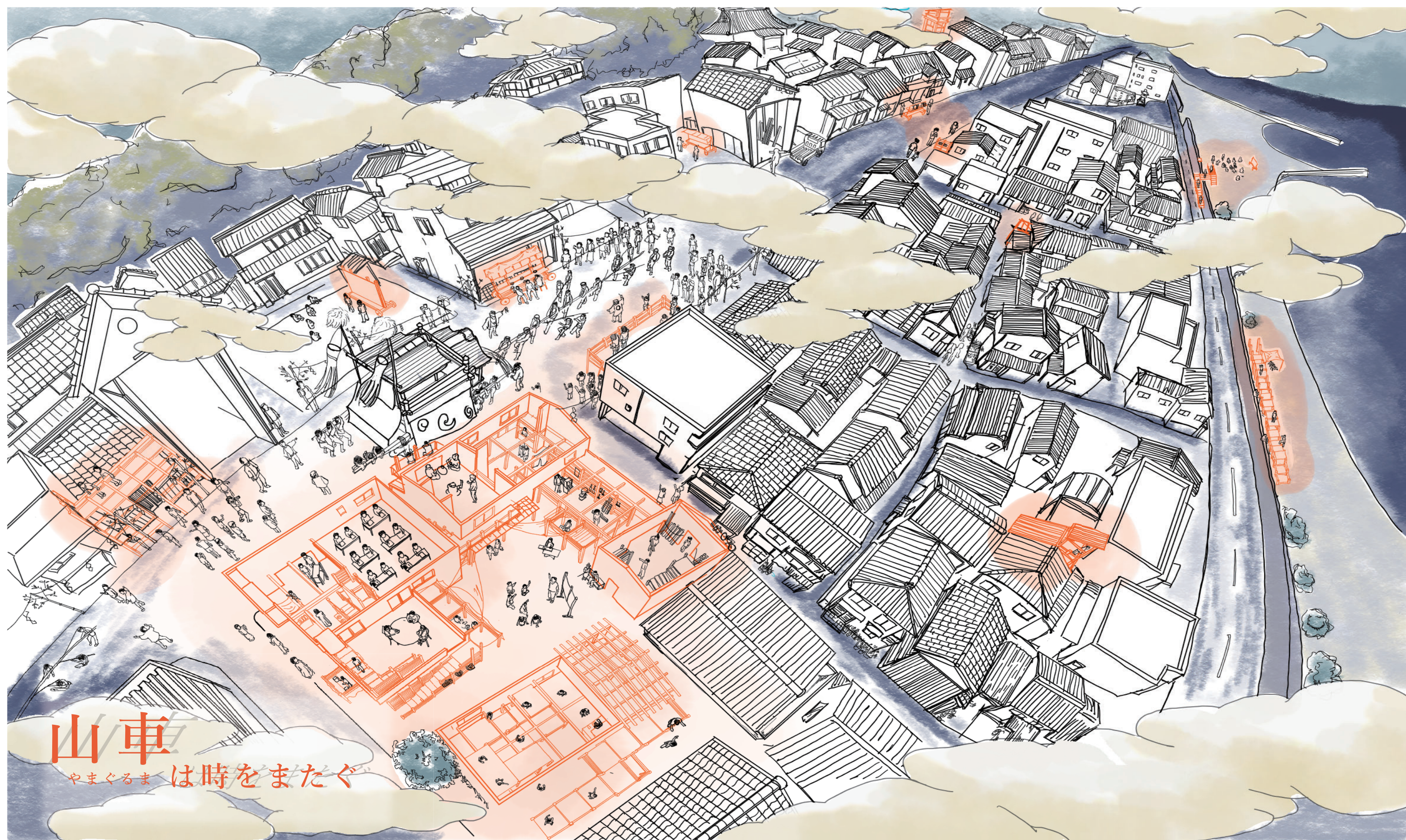
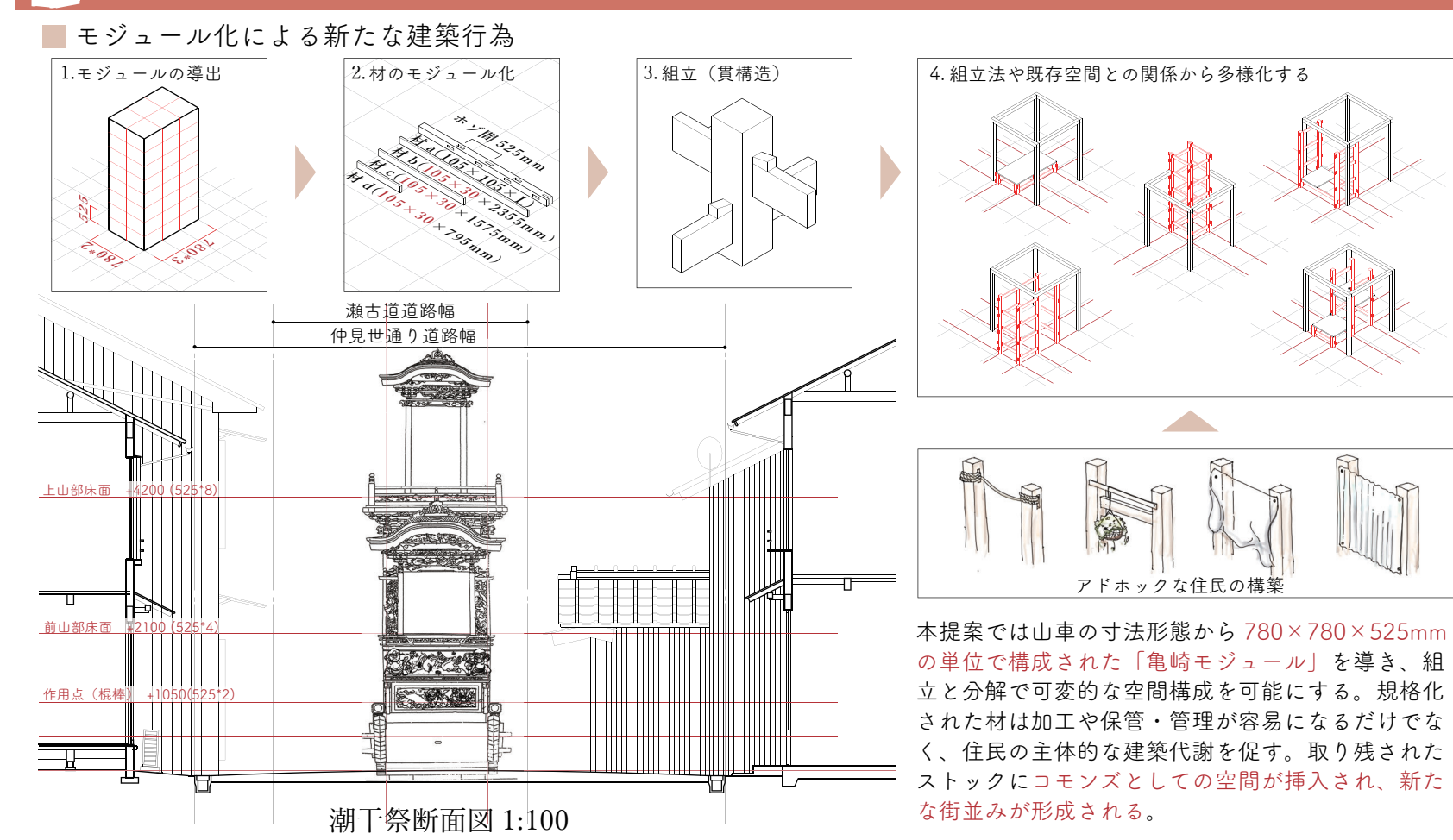




山車

やまぐるま は時をまたぐ

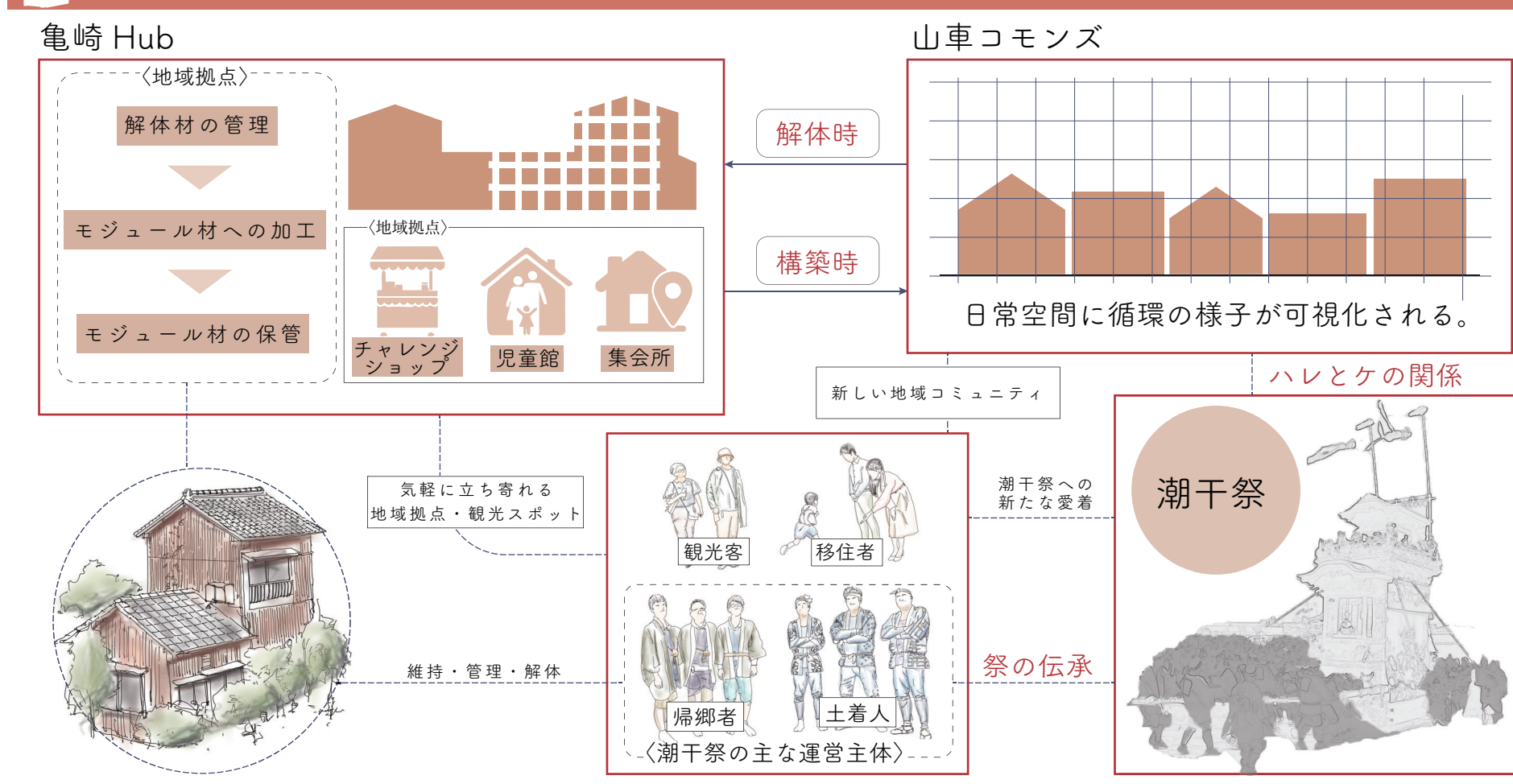
2 山車による「亀崎モジュール」



3 日常空間への表出



4 亀崎 Hub と山車コモンスによる新たな生活循環

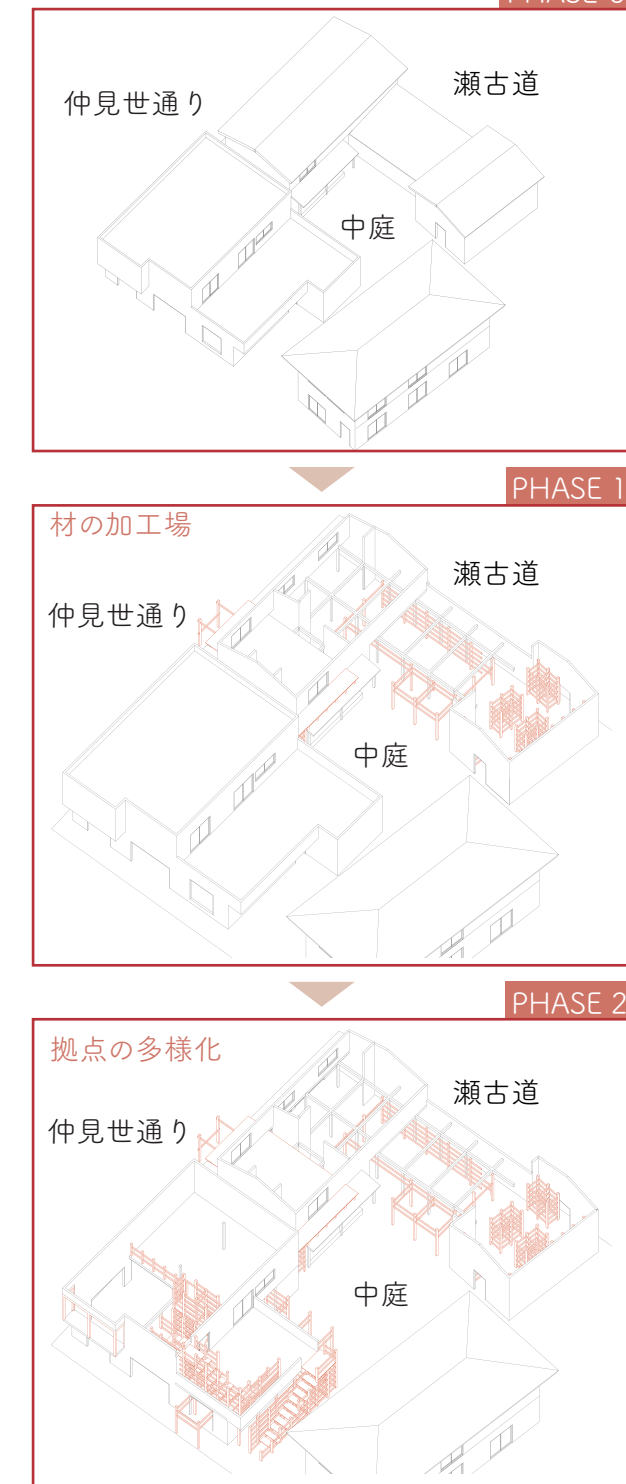


集積

モジュール材を加工・保管・流通させる地域の拠点

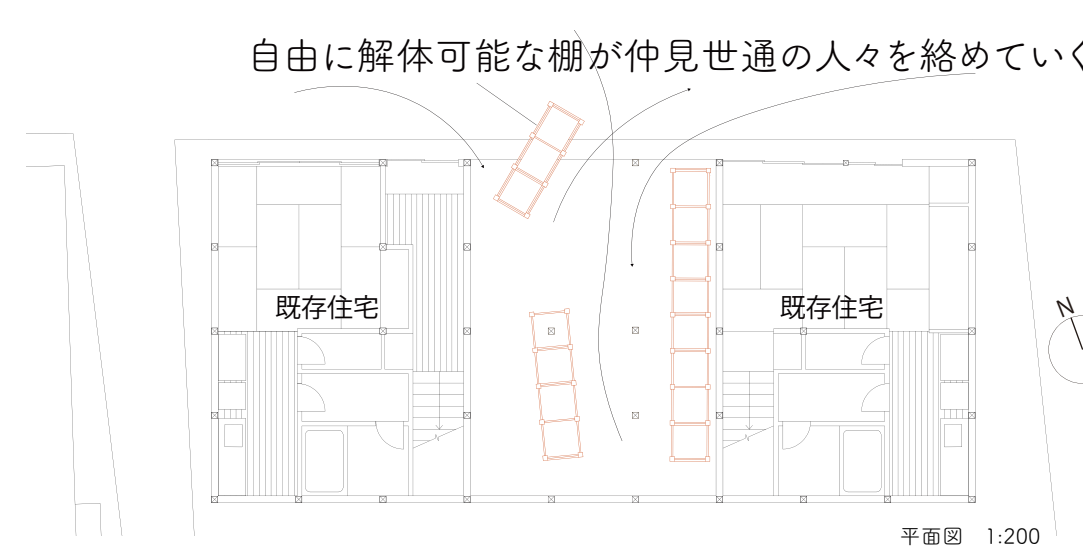


■空き家の段階的Hub化



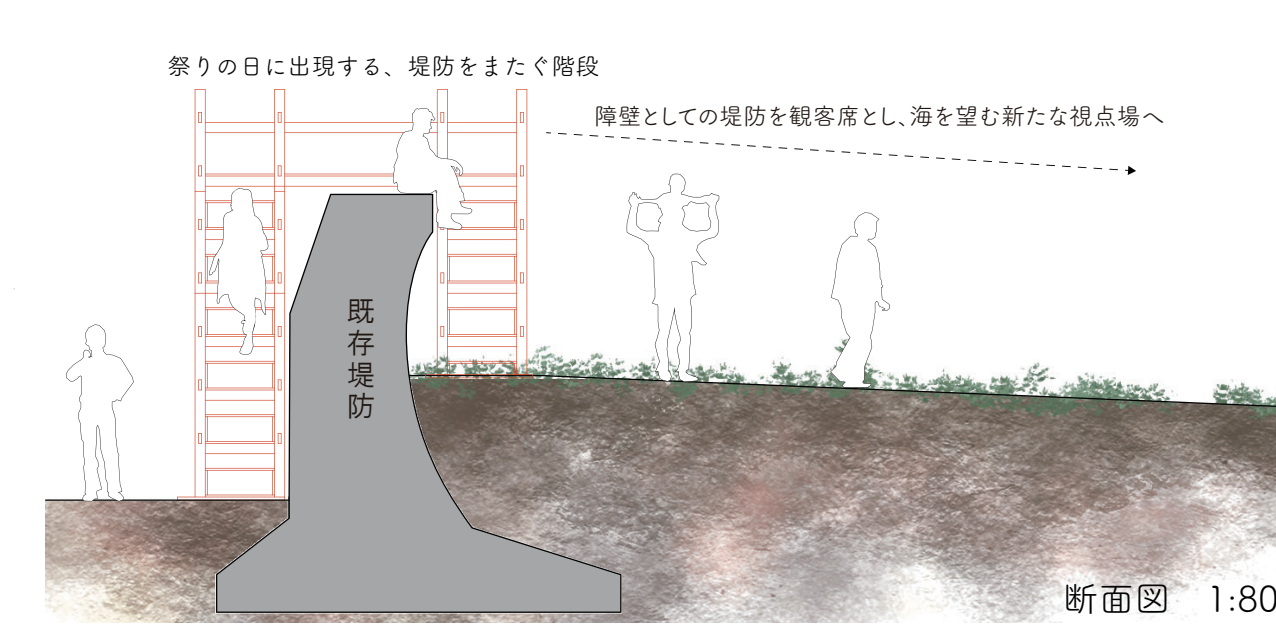
Case1. まちかど図書

古材は移動可能な棚として組上げられ、地域の要求に即座に答える空間を生み出す。ここでは地域住民らが古本などを持ち寄り、まちのライブラリーが形成される。書物以外にも地域にシェアしたいと思える物品を持ち寄り、地域の個性が滲み出す空間となる。



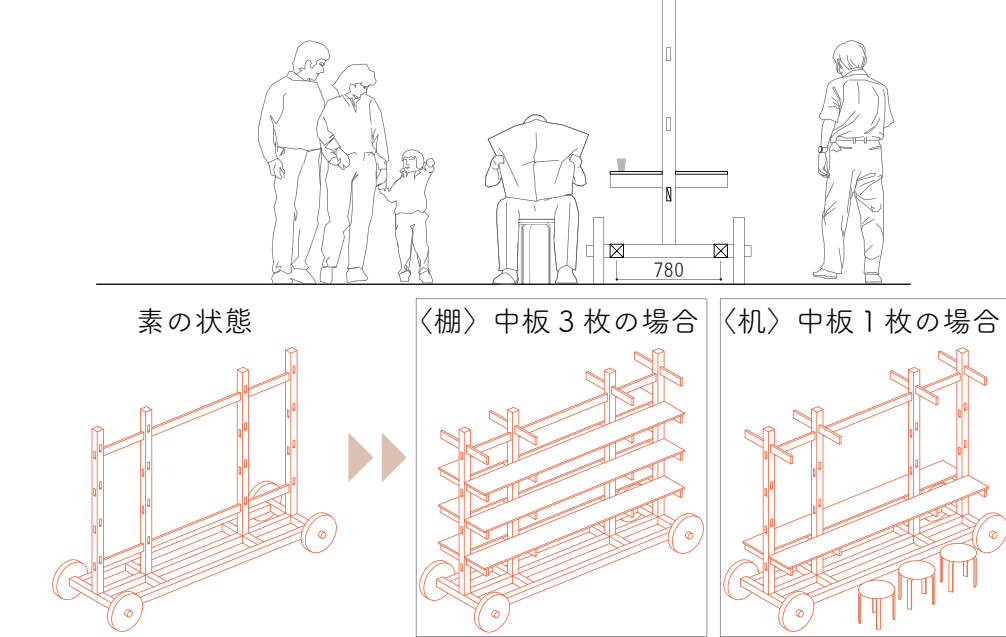
Case2. 堤防のテラス

伊勢湾台風で切り離された街と海との関係、祭りの日に仮設的に作られることで、堤防という壁をなくし、地域の記憶の中に海の記憶を取り戻す。



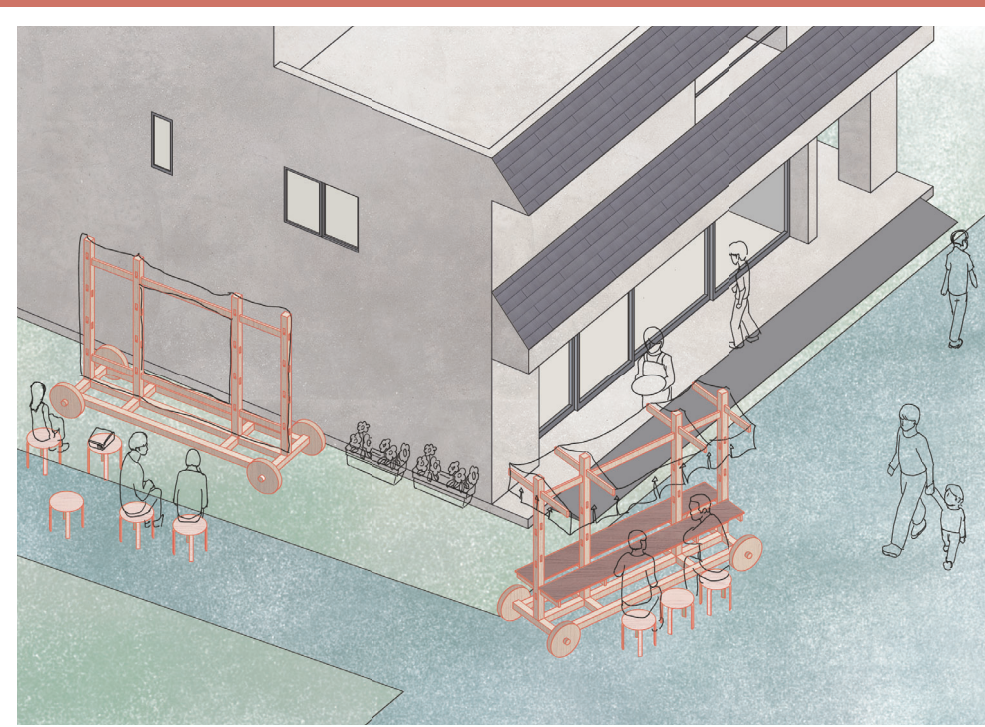
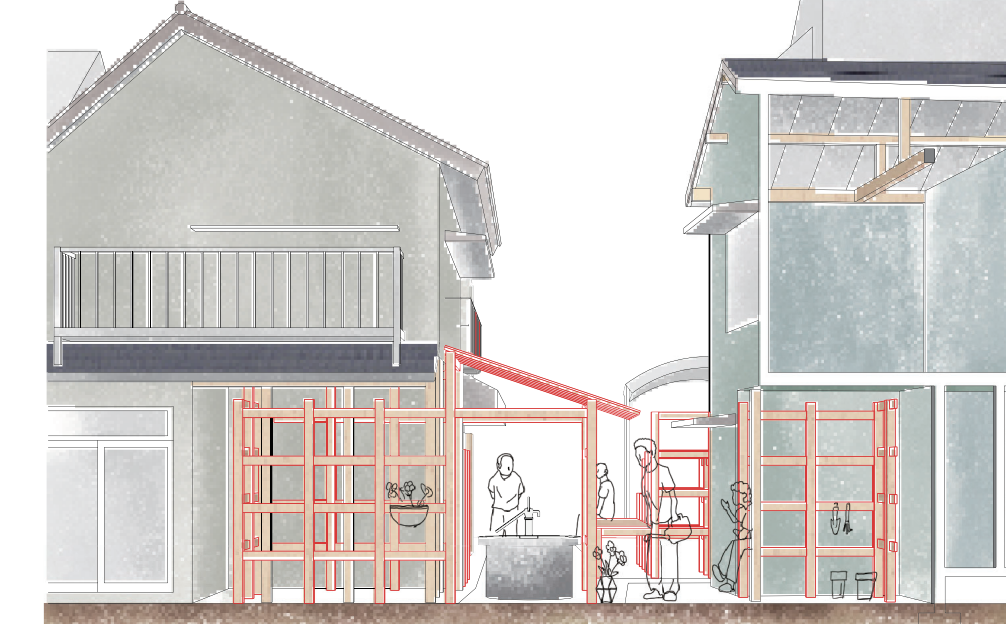
Case3. 屋台子山車

車輪のついた移動式屋台。ハレやケの様々なニーズに応える。



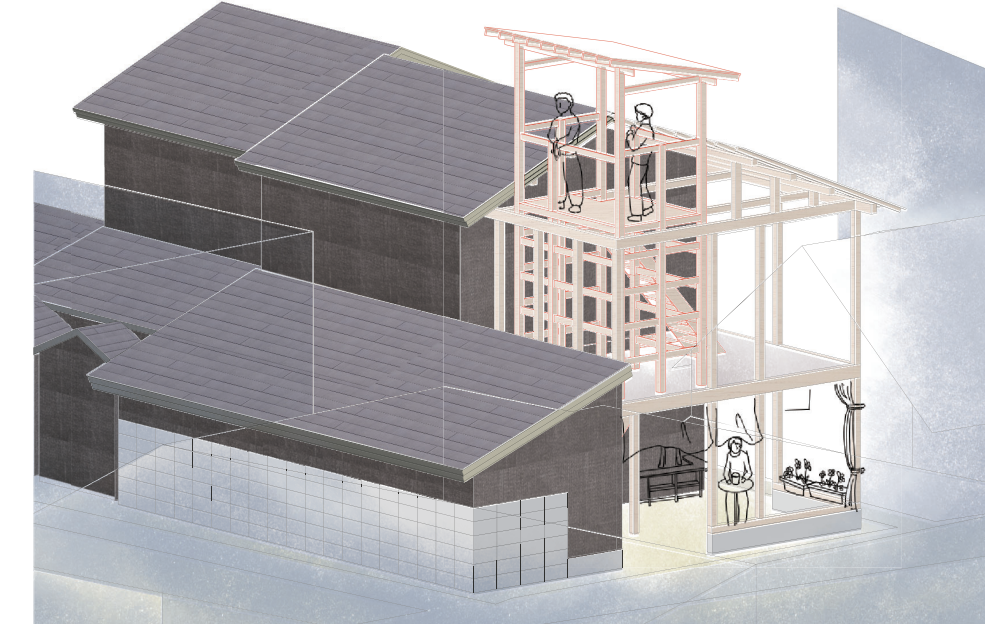
Case4. 井戸端コモンス

亀崎では井戸は生活コミュニティの中心であった。希薄になった地域住民の関係を取り戻すため、井戸を中心とし建物を繋ぐように空間モジュールを挿入した。



Case5. 潮古道の物見台

「部分空家」となっている住宅の余剰部分を減築し、コモンスとしての物見台を挿入する。堤防により阻害された海への眺望を取り戻しつつ、山車を見る空間にもなる。

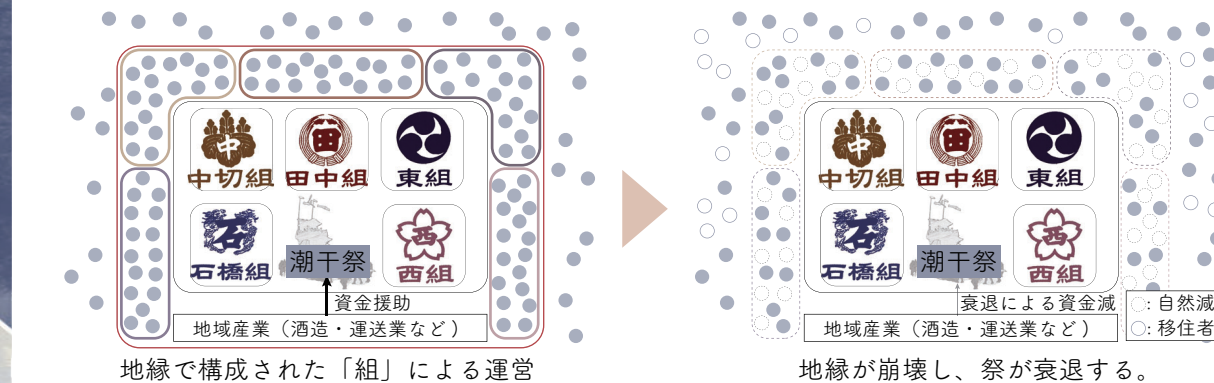


■祭りを中心とした「仲見世通り」と「潮古道」から成る街の構造



潮干祭の山車は潮古道や「仲見世通り」を通過し、海に曳き下ろされる。平時は営みの様子に明確な差があるが、ハレでは順路となるミチを中心として人々の賑わいで溢れる。街路と海を中心とした街の構造が地域文化と深くかかわっている。

■地縁と祭りの継承 - 地域課題 -



潮干祭は地縁で強く結ばれた「組」組織や地域産業の支援による運営がされてきた。少子高齢化や家族形態の多様化に伴い地縁が崩壊すると潮干祭が伝承されなくなり、地域文化は衰退する。

